

3番 畠山昌典です。通告に基づきまして、一般質問を行います。

いまだ衰えを見せない新型コロナウイルス感染症ですが、ワクチン接種や各種対応に追われている職員の皆様に敬意を表しつつ、今後の町政につき以下の2点について伺います。

町では、未来づくりプランの重点プロジェクトで、関係人口の拡大を謳っておりますし、未来を創る希望プロジェクトではふるさと創造企画も挙げています。

現在、様々な状況の変化により関係人口・交流人口は減少傾向にあり、それを打開するため各関係機関ではそれぞれの対応策を模索している状況にあると認識しております。

そこで、岩泉町の魅力を再度掘り起こし、最大限に発信すること、産業の振興や地域づくり、観光・イベントなど広範囲にわたり検討する「岩泉町まちおこし推進協議会」を結成し、今後の町やまちづくりの在り方を多方面から検討すべきではないでしょうか。

未来づくりプランの「まちづくりの理念と基本姿勢」の、自分たちの手による持続可能な地域づくり、未来を創り出す行政組織づくり、多様な主体と行政の協働によるまちづ

くりを実践する実働部隊になり得ると考えますが、町長の所見を伺います。

次に役場庁舎の改修整備について伺います。

老朽化が進んでいる本庁舎は、建て替えなどの検討に入る段階だと認識していますが、小川支所を含む小川地区の複合施設整備の進捗状況と併せて町の見解を伺います。

以上で本席からの質問を終わります。

3番 畠山 昌典 議員の御質問にお答えします。

初めに、本町のまちおこしについてですが、関係人口・交流人口の拡大は、人口減少社会の中において、重要な取組であると認識しており、未来づくりプランの中でも、重点プロジェクトの一つに位置付けております。

近年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、人流が抑制され、大変厳しい状況が続いておりますが、その中にあっても、町民の皆様の御協力や御支援も賜り、様々なイベント、観光誘客対策、お試し居住プログラムと連動した地域おこし協力隊の募集の取組強化など、多種多様な移住定住政策に、積極的に取り組んできたところであります。

特にも、地域おこし協力隊員の人数は、任期を終えた方も含め、令和元年度の6人に対し、令和4年11月末現在では26人に増加しております。

また、観光の入込客数につきましても、令和2年度の26万8千人に対し、令和3年度は30万2千人と、この逆風の中においても、着実に数字を伸ばし

ているところであります。

議員御提言の「岩泉町まちおこし推進協議会」の結成につきましては、多様な主体の参画により、まちおこしを実践できる団体のひとつとなる可能性はあるものと考えておりますが、既存の類似団体などとの関係性や位置付け、あるいは整合性の調整の問題、さらには、性格付けや役割分担など、様々な角度からの調査研究が必要になるものと考えておりますので、御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

次に、町役場本庁舎の改修整備、及び小川支所を含む小川地区複合施設整備の進捗状況についてであります。役場本庁舎は、昭和41年1月建築後、57年を迎えようとしており、議員御指摘のとおり、新たな庁舎整備の検討に着手すべき段階にきているものと認識しております。

他市町村の例を参考にしますと、内部検討組織立ち上げから住民説明等を経て、庁舎整備完了まで5年から6年の期間が必要と考えられますので、令和

5年度に内部組織を立ち上げ、財源確保等を含め、今後、時代のすう勢も勘案しながら、様々な可能性を模索し、庁舎の在り方、施設整備の方向性について検討を進めてまいりたいと存じます。

また、小川地区複合施設の整備につきましては、本年6月に庁舎内部で施設整備検討チームを立ち上げ、整備計画の検討を進めており、本定例会に、基本設計の補正予算をお願いしているところであります。

本年度中には基本設計に入り、地域の方々からの御意見をお聞きするとともに、議会にも御協議しながら、令和7年度の整備完了の予定で取り組んでまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。